

平成27年度尾鷲高校男女共同参画セミナー
開 催 報 告 書

平成28年1月19日（火）
～平成28年2月23日（火）

尾 鷲 市
尾鷲市男女共同参画審議会

目 次

事業概要	p 1～2
フェーズ①	p 3～4
フェーズ②	p 5～9
フェーズ③	p 10～18
総括	p 19～21
資料編	p 22～62

事業概要

尾鷲市男女共同参画審議会（会長 重松良祐、全10人）の提唱により、最も多感にジェンダー（社会的、文化的に形成された男女の違い）を意識する世代である高校生を対象とした男女共同参画セミナーを、昨年度に引き続き、三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」のご協力をいただき、尾鷲高校普通科プログレッシブコース1年1組を対象に開催しました。

なお、開催にあたりましては、尾鷲高校（土井 秀之校長）の教育方針である、

- ①生徒が大人に話を聞いて交流することで、校内とは違う大人社会でのコミュニケーション能力を養う
- ②生徒が自分たちで意見を取りまとめ、発表する力を養う
- ③生徒が地域との関わりを持ち、実感を持って地域の実態を把握することで、社会の視野を広げる

という意向に基づくかたちで授業を構成しました。

○目的

- 1 「性別にとらわれず、それぞれのライフスタイルや価値観を尊重し合うまち」づくりに向けた男女共同参画の理念の啓発
- 2 将来、社会のリーダーとして活躍するための人材育成

○対象

尾鷲高校 普通科 プログレッシブコース 1年1組（担任 水谷 教諭）

○講師

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」 服部 亜龍 さん

○内容

テーマ：「人口減少」

高校生が普段の生活のなかで感じているジェンダーの違いによる不平等などを考えるために、最も身近で分かりやすいテーマとして設定しました。

生徒たちは、総合的な学習の時間において、まちの大人から聞いた地域の実態を踏まえた高校生目線の提言をまとめ、発表しました。

授業は、以下のとおり3段階構成で行いました。

- <フェーズ① 平成28年1月19日（火）3～4限目（10:35～12:25）>
「10年後、住み続けたいまち」について意見出し
…人口減少と男女共同参画との関連性、尾鷲市の現状と将来推計などを知り、「10年後、住み続けたいまち」について、グループで協議する。

具体的に将来をイメージすることで、身近な生活のなかから問題意識を拾い上げるとともに、将来のキャリア形成にも意識を持つ。

＜フェーズ② 平成28年2月16日（火）4限目（11:35～12:25）＞
まちの大人にインタビュー

…まちの大人から実際に話を聞き、自分たちの考えを投げかけることで大人とのコミュニケーションを図るとともに、地域の実態を知り、社会に触れる経験をする。

＜フェーズ③ 平成27年2月23日（火）3～4限目（10:35～12:25）＞
グループワークで高校生目線の男女共同参画者社会への提言まとめ

…インタビューにより得た実態と、講師の解説をヒントに、グループで課題を見つけ出し、解決策を考え、発表する。

フェーズ①

平成28年1月19日（火） 3～4限目
10:25～11:25

講師であるフレンテみえの服部さんや尾鷲市から、男女共同参画の基本的な法律や、全国や三重県、尾鷲市・紀北町の調査データなどを学んだあと、男女に分かれて、男子は「女性が得だと思うこと」、女子は「男性が得だと思うこと」を思いつく限り書き出してもらいました。



*男女共同参画とは... → 法律制定

実は男女共同参画は、「法律」に基づいて進められています

男女共同参画社会基本法

平成11年6月23日公布・施行

今年で16歳

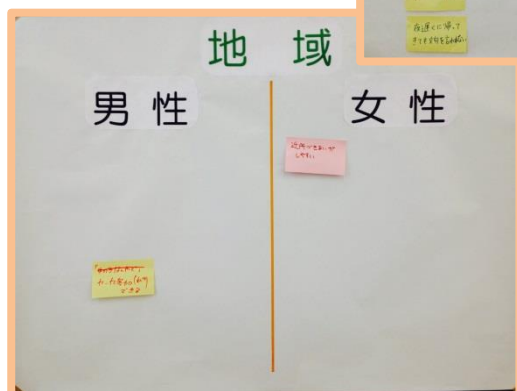
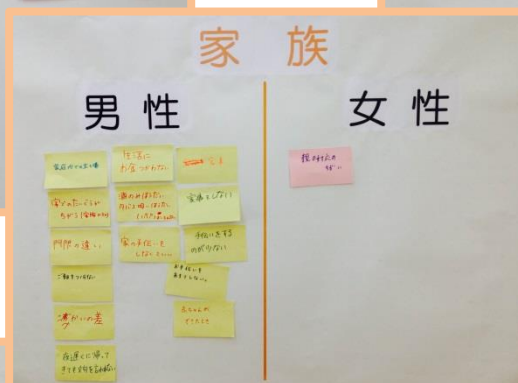
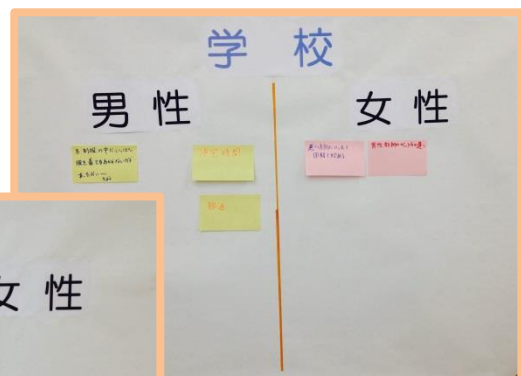
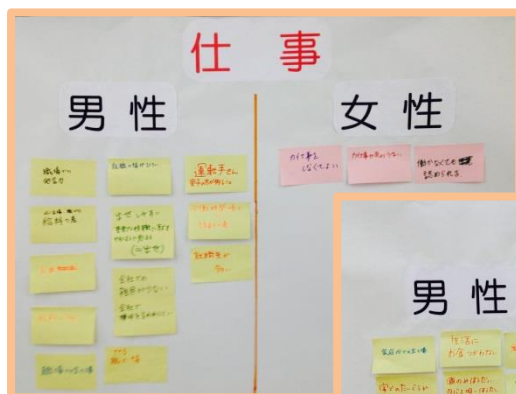
男女共同参画社会とは

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会
(男女共同参画社会基本法第2条)

仕事の責任は女性にも男性にもあり、
家庭の責任も男性にも女性にもあります。

<出された意見>

「仕事」「地域」「家庭」「学校」「その他」の5つのカテゴリーに分類しました。



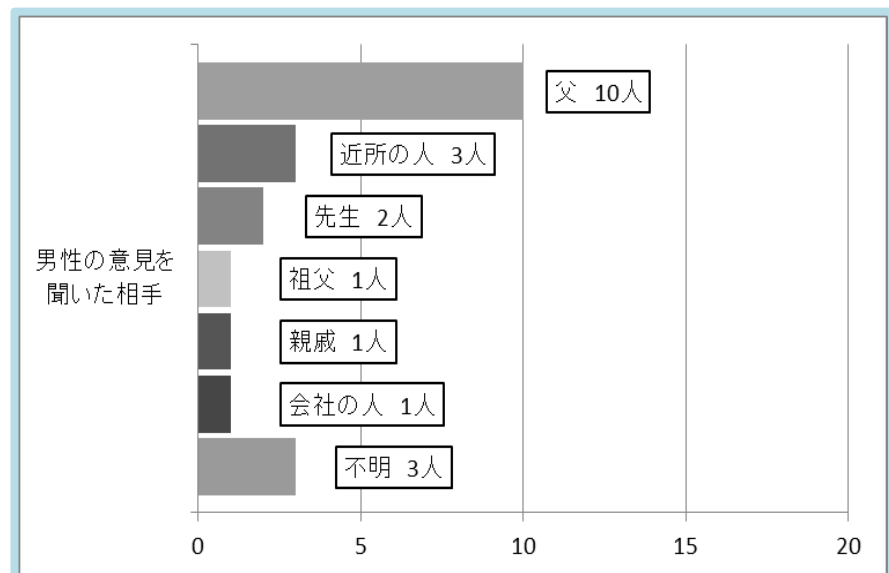
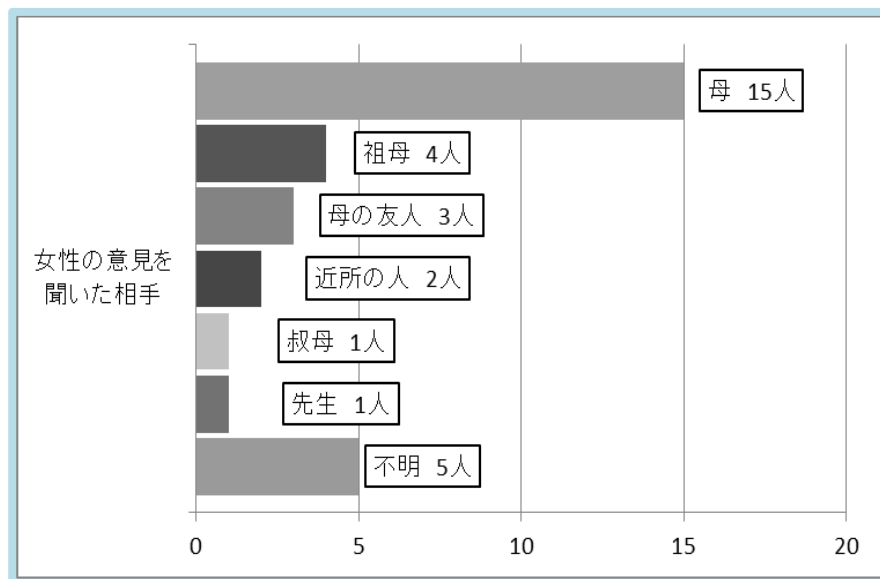
＜出された意見まとめ＞

カテゴリー	男性が得なこと	女性が得なこと
仕事	・職業が幅広い ・給料が多い ・出世しやすい ・職場での立場や発言力が強い ・雑用が少ない	・力仕事が少ない ・働かなくても認められる
地域	・ヤーヤ祭りの練りに参加できる	・近所づきあいがしやすい
家庭	・立場が強い ・家事や手伝いをあまりしない ・夜遅くなってもいい ・お酒やたばこが自由 ・お小遣いが多い、お金がかからない ・赤ちゃんができたとき	・親の対応が違う
学校	・冬、制服の中にたくさん着込める ・帰宅時間 ・部活	・悪い方向にいったら団結し始める ・男性教師の叱り方が違う
その他	・男性の意見の方がより反映される ・言葉遣いが少々汚くても良い ・寝ぐせを直さなくて良い ・股を開ける ・制服がスカートじゃない ・あまり器用さを求められない	・アイドル好きでも普通 ・女の涙 ・守られる側、弱くても良い ・Men's109より109の方が大きい ・レディファースト ・女性専用車両がある ・怒られ方が男より弱い、許されやすい ・運動が苦手でも良い ・スカートやピン止めを身につけることができる ・平均寿命が長い ・割引が多い ・おごってもらったりプレゼントをもらうことが多い ・男性優位を利用し、弱者を装える ・社会に対する意見を通しやすい

フェーズ② 宿題

フェーズ①で出たさまざまな意見について、身近な大人に実際の話を取材してきてもらいました。自分の暮らす地域の実態を知ることと、家族以外の大人にもインタビューを行い、社会に触れる経験をすることを大切にしました。

<インタビューした相手>



<インタビュー結果まとめ>

【仕事】

男性が得なこと		インタビューで得た意見
職業が幅広い	⇒	・男性にしかできないものもあれば、女性にしかできないこともある ・今は女性の方が多いと思う ・男性が得とはあまり感じない など
給料が多い	⇒	・役職により給料の差はあるが、同じ立場上での差はない ・今の時代は性別による待遇の違いはないように思う など
出世しやすい	⇒	・あるかもしれない ・職種による など
職場での立場や発言力が強い	⇒	・性別ではなく役職による ・責任を負うのはだいたい男 など
雑用が少ない	⇒	・自分の職場ではない ・上下関係による など

女性が得なこと		インタビューで得た意見
力仕事が少ない	⇒	・職種による。看護師、ヘルパーは多い ・得ではなく互いに補いあっている ・男性がする方が高効率 など
働かなくても認められる	⇒	・その分家事や子育て、介護をしている ・男性の方が収入が多いから ・そんなことはない など

【地域】

男性が得なこと		インタビューで得た意見
ヤーヤ祭りの練りに参加できる	⇒	・これは男の祭りだから など

女性が得なこと		インタビューで得た意見
近所づきあいがしやすい	⇒	・社交性の違い ・しやすいではなく必要があるから ・男女関係ないと思う など

【家 庭】

男性が得なこと		インタビューで得た意見
立場が強い	⇒	・昔は亭主関白という言葉があったが、今はない ・家庭によっては逆の場合もある など
家事や手伝いをあまりしない	⇒	・力仕事はある ・家事の分担は少ないと思う ・ご飯は作らないが買い物はする など
夜遅くなってもいい	⇒	・女性の方が危ないので仕方ない など
お酒やたばこが自由	⇒	・言われない ・家庭による など
お小遣いが多い、お金がかからない	⇒	・家庭によるもので男女の差ではない ・その人の感覚による など
赤ちゃんができたとき	⇒	・子育てや家事をしなくていいという決まりはない など

女性が得なこと		インタビューで得た意見
親の対応が違う	⇒	・怒られるのは一緒だが、強弱はある ・母親からすると息子の方が可愛いし甘いと思う ・育て方に差別はない など

【学 校】

男性が得なこと		インタビューで得た意見
冬、制服の中にたくさん着込める	⇒	・制服はズボンの方があたたかいと思う など
帰宅時間	⇒	・同じ など
部活	⇒	・自分で選ぶので関係ない ・体力的な差が競技に出ている など

女性が得なこと		インタビューで得た意見
悪い方向にいったら団結し始める	⇒	・何事でも女性は団結したがると思う ・男よりは団結しやすい など
男性教師の怒り方が違う	⇒	・平等に叱った方がいい ・受け身の態度の違いでは ・性別によっては変わらない など

【その他】

男性が得なこと		インタビューで得た意見
男性の意見の方がより反映される	⇒	・ そうでもない ・ 良い意見が通る など
言葉遣いが少々汚くても良い	⇒	・ 人による ・ 汚いと思う など
寝ぐせを直さなくて良い	⇒	・ 直さなければならぬときがある ・ 人による など
股を開ける	⇒	・ 開きたかったら開けばいい など
制服がスカートじゃない	⇒	・ スカートで嫌な思いをしたこともある ・ 女子もズボンOKにしては など
あまり器用さを求められない	⇒	・ そんなことはない ・ 男は器用じゃないと など

女性が得なこと		インタビューで得た意見
アイドル好きでも普通	⇒	・ 別に男性がアイドル好きでもいいのではないかと ・ 人による など
女の涙	⇒	・ 男性のとらえ方次第 ・ 涙では許されないこともある など
守られる側、弱くても良い	⇒	・ 社会人になれば性別を理由にできない ・ 守ってほしいとは思いますが、当たり前ではない など
Men's109より109の方が大きい	⇒	・ 需要が違うので供給も違ってくる など
レディファースト	⇒	・ 日本では風習がない ・ 欧米文化 など
女性専用車両がある	⇒	・ 痴漢がいるので仕方ない ・ 男性にとっても良い事だと思う など
怒られ方が男より弱い、許されやすい	⇒	・ 多少あると思う ・ 内容による ・ 悪いことは悪いことで怒られる など
運動が苦手でも良い	⇒	・ 言われる など
スカートやピン止めを身につけることができる	⇒	・ 男も着たければ着ればいい ・ おしゃれの幅が広い など

平均寿命が長い	⇒	• 寿命が長ければ得するわけではない • 寝たきりで寿命が長くても良いことはない	など
割引が多い	⇒	• 需要があるから	など
おごってもらったり プレゼントをもらうこと が多い	⇒	• 学生のうちは割り勘、大人になれば立場で変わる • 最近は逆も増えている • 日頃の感謝を受けとっている	など
男性優位を利用し、 弱者を装える	⇒	• できない	など
社会に対する意見を 通しやすい	⇒	• 認められないことも多い • 上の立場の人に男性が多い	など

フェーズ③ 平成27年2月17日（火） 6～7限目 14:00～16:10

フェーズ①で出されたさまざまな意見に、フェーズ②で得た身近な大人の意見を加えると、自分のなかの意識と地域の実態とのギャップが見えてきました。

それらについて、講師の解説により、全国的な現状や考え方のヒントを学んだあと、グループで課題を選び、解決策を話し合い、高校生目線の男女共同参画社会への提言として発表しました。

<発表の様子>



<各グループの発表まとめ>

1 班

●選んだカテゴリー： **その他**

●選んだ課題

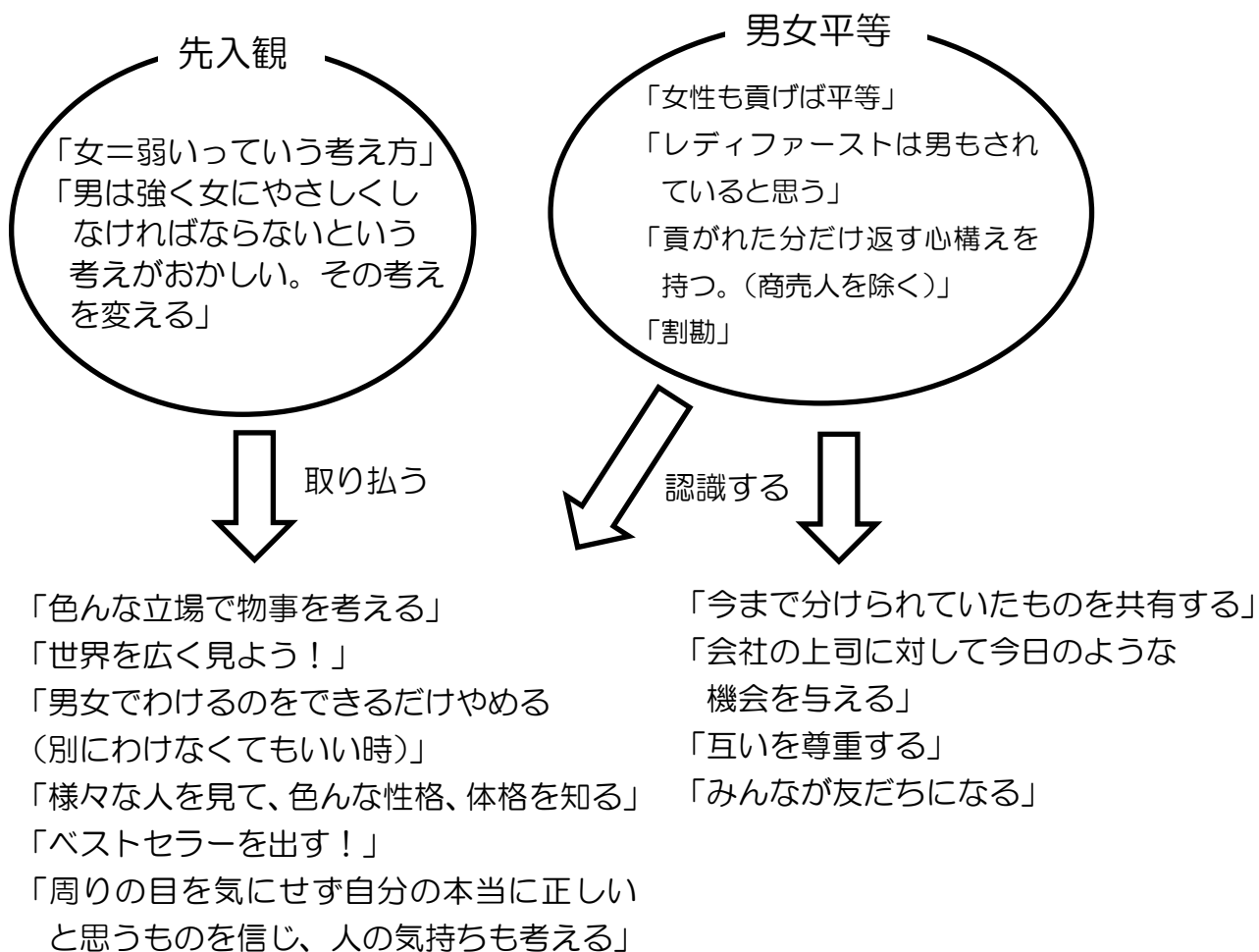
「(女性の方が) 社会に対する意見を通しやすい」

「(女性は) 何をしても大抵許される」 「レディファースト」

「男性の方が相手に貢ぐ金が多い」 という意見について



●出された意見



●ま と め

「女は弱い」「男は強く女に優しくしなければならない」などといった先入観を取り払い、日頃から「貢がれた分だけ返す心構え」や「割勘」などといった男女平等の考え方を認識する。

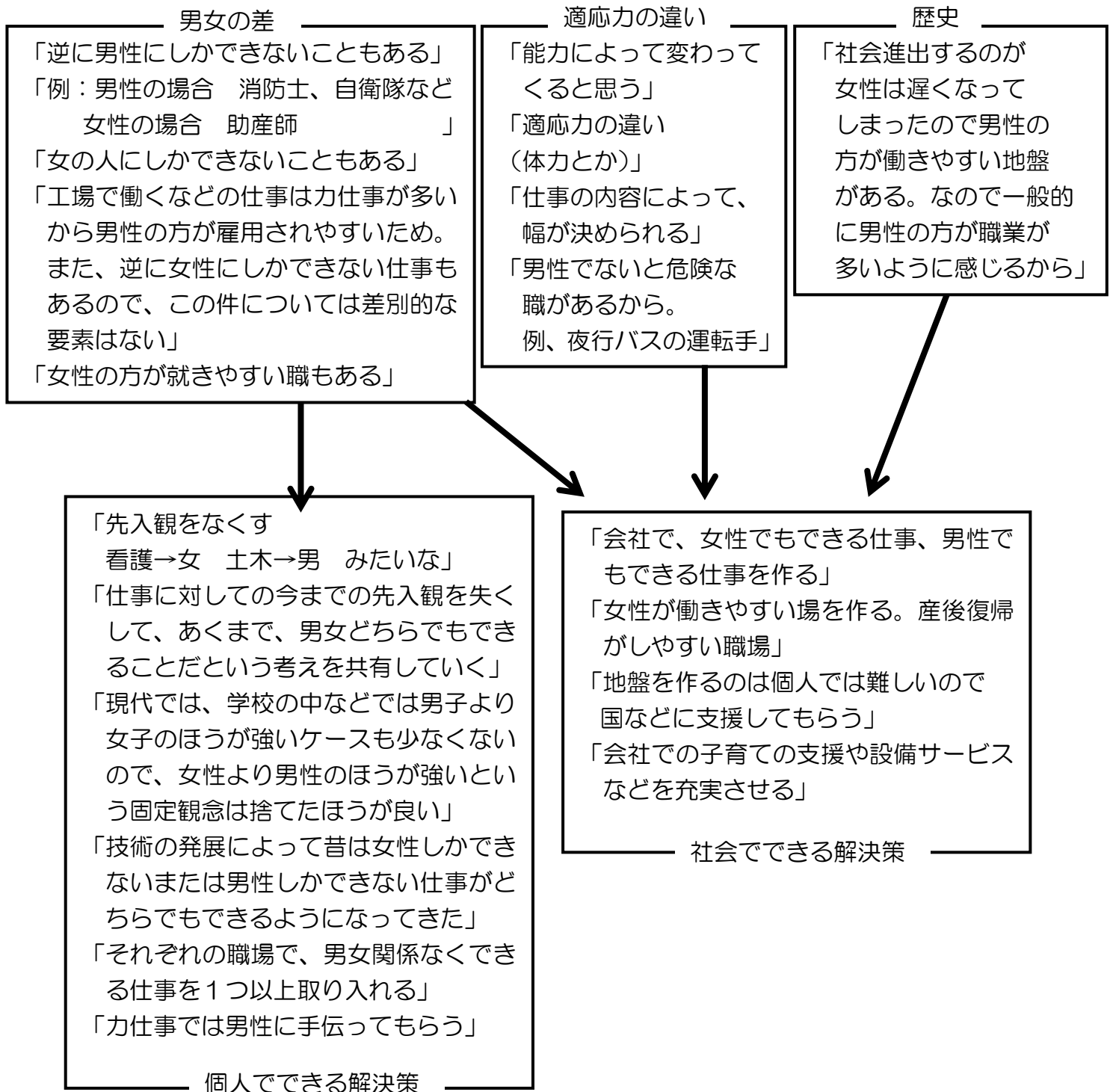
2班

●選んだカテゴリー：**仕事**

●選んだ課題
職業の幅について



●出された意見



●ま と め

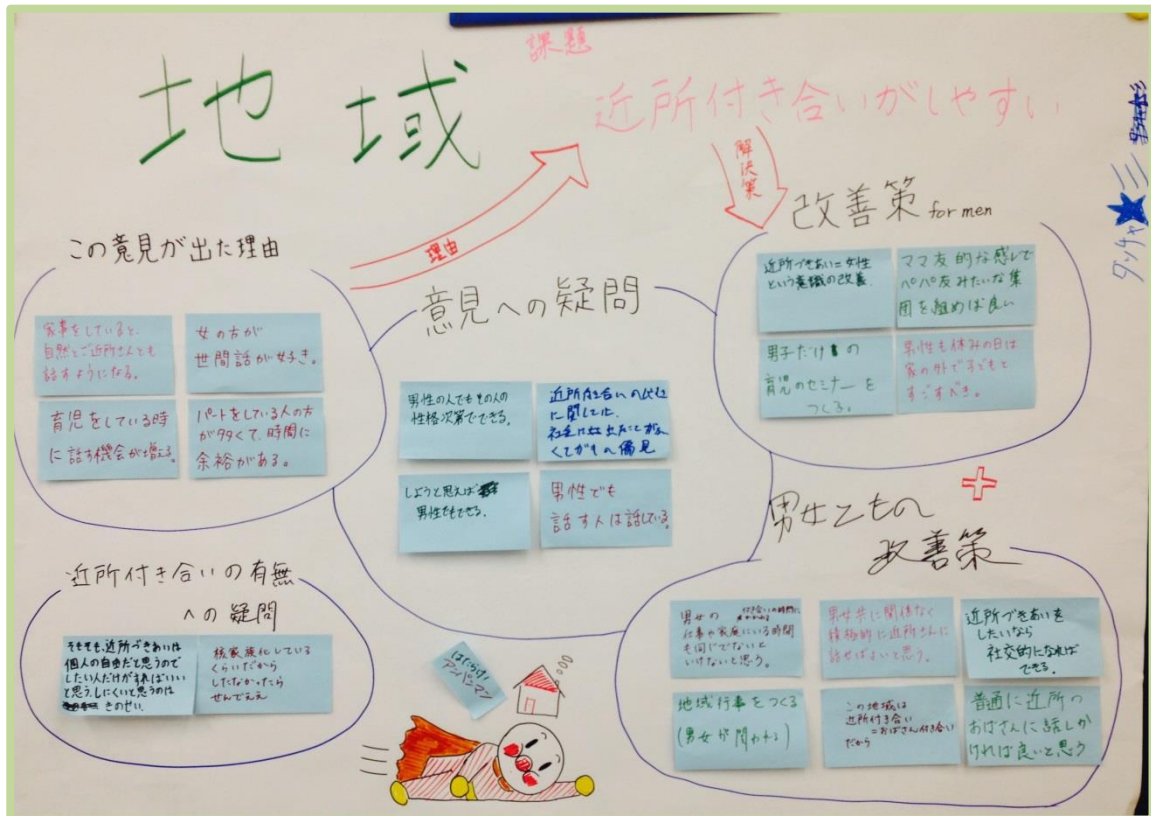
先入観や固定概念を捨てるなどといった「個人でできる解決策」と、子どもを持つ女性が働きやすい地盤や職場づくりなど「社会でできる解決策」を併せて進める。

3班

●選んだカテゴリー：地域

●選んだ課題

「(女性) 近所付き合いがしやすい」という意見について



●出された意見

課題

近所付き合いがしやすい

この意見が出た理由

「家事をしていると、自然と
ご近所さんとも話すようになる」
「育児をしている時に話す機会が
増える」
「女の方が世間話が好き」
「パートをしている人の方が多く
て、時間に余裕がある」

理由

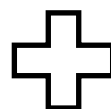
解決策

改善策 for men

「近所づきあい＝女性という
意識の改善」
「男子だけの育児のセミナーをつくる」
「ママ友的な感じでパパ友みたいな集団
を組めば良い」
「男性も休みの日は家の外で子どもと
すごすべき」

意見への
疑問

「男性の人でもその人
の性格次第でできる」
「しよつと思えば男性でもできる」
「近所付き合いのしやすさに関して
は、社会に出たことがないくそガキ
の偏見」
「男性でも話す人は話している」



男女ともに改善策

近所付き合いの有無

への疑問

「そもそも、近所づきあいは個人
の自由だと思うのでしたい人だ
けがすればいいと思う。しにくい
と思うのはきのせい」
「核家族化しているくらいだから
したなかったらせんでええ」

「男女の仕事や家庭にいる時間も
同じでないといけないと思う。
→付き合いの時間にかかわる」

「男女共に関係なく積極的に近所さんに話せばよい
と思う」
「近所づきあいをしたいなら社交的になればできる」
「地域行事をつくる（男女が関われる）」
「この地域は近所付き合い＝おばさん付き合い
だから」
「普通に近所のおばさんに話しかければ良い
と思う」

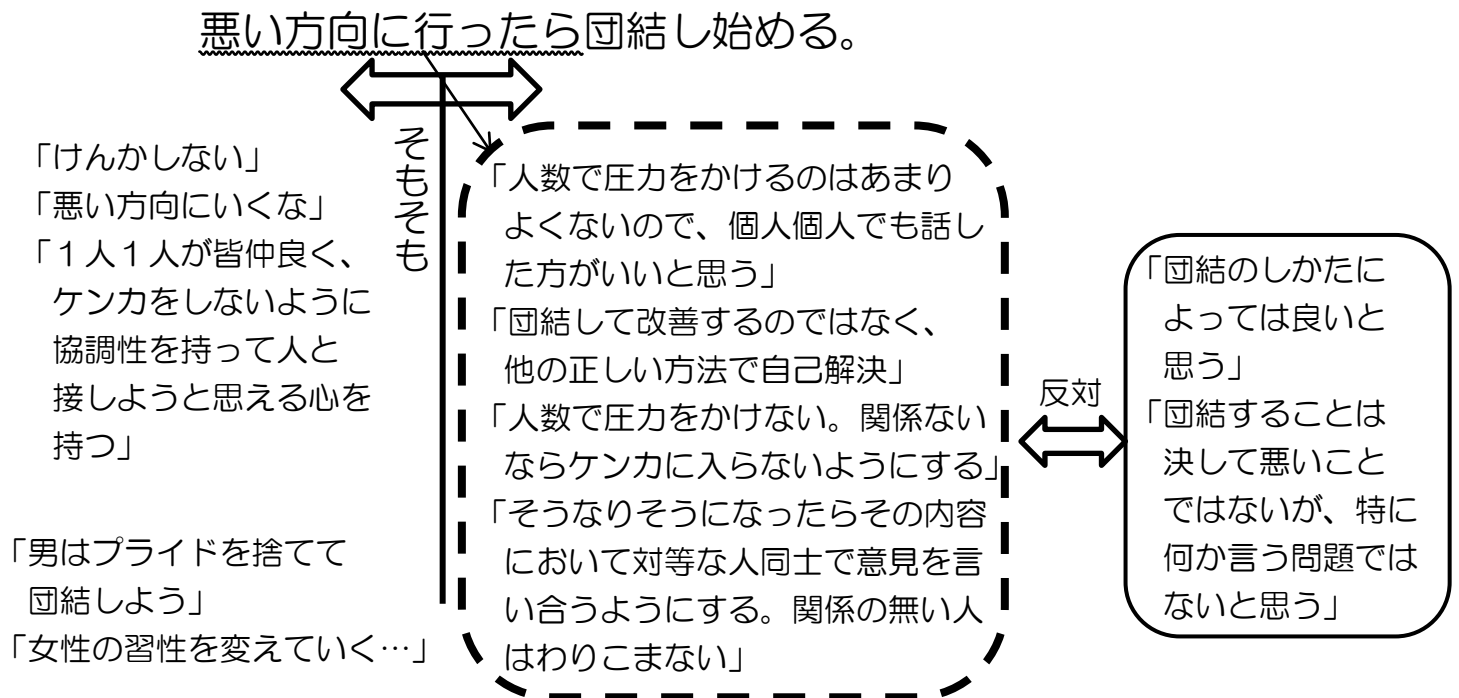
●ま と め

積極的な育児参加、パパ友づくり、近所付き合い＝女性といった意識の改善などの男性が取り組むべき改善策と、性別に関係なくご近所と会話をする、地域行事をつくるなどの男女ともにできる改善策を併せて進める。

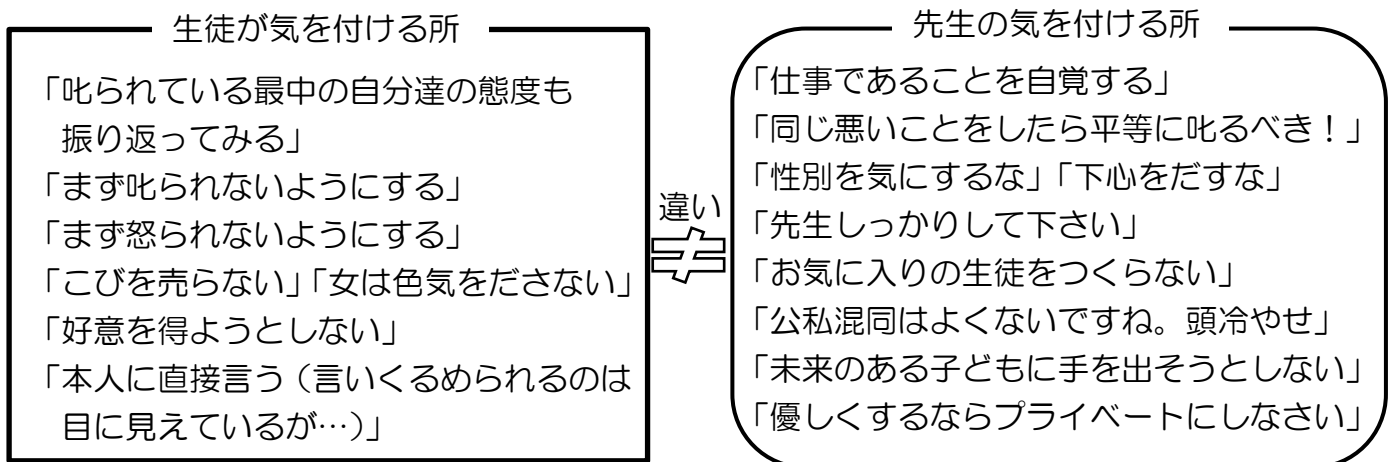
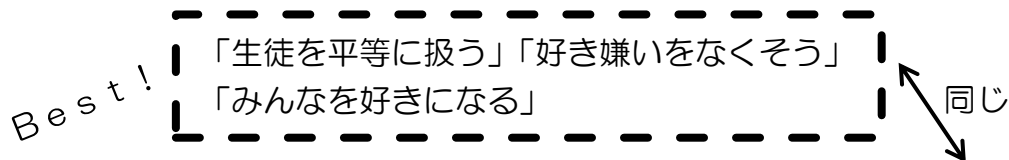
「（女性は）悪い方向に行ったら団結し始める」
「男性教師の叱り方が違う」という意見について



●出された意見



男性教師の叱り方が違う。



●ま と め

(上について) 問題の解決は、関係のない人との団結により人数で圧力をかけることは避け、個人で話し合うなどの方法を探る。
(下について) 先生に対し、生徒を好き嫌いなく平等に扱うことなどを求めるとともに、生徒自身も気を付けるべきことを意識する。

総 括

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」所長 石垣 弘美

2014年5月、少子化や人口移動・減少に歯止めがかからず、将来に消滅の可能性がある自治体が全国に896あると、日本創成会議人口減少問題検討分科会から発表されました。この尾鷲市もそのひとつに挙げられています。

多くの機関が協働し、故郷尾鷲を守ろうとするさまざまな取り組みのなかで、これからの尾鷲市を担う高校生を将来のリーダーへ向けて育成しようという市と尾鷲高校の強い想いが、この男女共同参画セミナーの連携事業として実現されたことは非常に意義深く、また、この機会に私ども「フレンテみえ」も協力させていただけたことを大変嬉しく思います。ありがとうございました。

さて、今回のセミナーでは最終的に4つの班に分かれ、「仕事」「地域」「家庭」「学校」「その他」から選択した1つのカテゴリーのなかから課題を抽出し、解決策を探りました。各班それぞれが価値のある意見を提示してくれています。

●1班 カテゴリー：その他

課題：「(女性の方が) 社会に対する意見を通しやすい」

「(女性は) 何をしてても大抵許される」「レディファースト」

「男性の方が相手に貢ぐ金が多い」など

一見バラバラに思える課題から、根底にある「男性だから」「女性だから」という先入観に気付き、「様々な人を見て」「色んな立場で物事を考える」ことの大切さを改善策として導きました。この考え方は「ダイバーシティ(多様性)」と呼ばれ、多様な人財を活用し競争力を高めると企業でも注目されている意識であり、地域の活性化にも有効とされています。若い世代でありながら社会の根底にある課題や有効な対応手段に気付く柔軟さに感心しました。

●2班 カテゴリー：仕事

課題：「職業の幅について」

性別によって職業の幅が違う原因として、固定的な役割分担意識・先入観に加え、女性は社会進出するのが遅かったという歴史的な背景にも触れ、それに対して、個人でできることと社会でできることの両建てで解決策を提示できたことは素晴らしいものでした。

●3班 カテゴリー：地域

課題：「(女性は) 近所付き合いがしやすい」

「家事をしていると、自然とご近所さんとも話すようになる」「育児をしている時に話す機会が増える」「しよつと思えば男性でもできる」などの意見が出ました。これは、性別で大きな違いはなく、環境や条件がそろえば男性でも同じ

ようにできるということではないでしょうか。改善策での「男女の仕事や家庭にいる時間が同じでないといけない」という意見は、まさにこの課題を解決する鍵であり、この大切な取り組みまで短時間でたどり着いたことに、彼らの地域に対する高い意識を感じました。

●4班 カテゴリー：学校

課題：「(女性)は悪い方向に行ったら団結し始める」
「男性教師の叱り方が違う」

学校というカテゴリーは、やはり高校生にとって最も身近で、生の声をたくさん聞けましたが、大人の視点からは予想できなかった課題や意見が出て、非常に興味深く感じました。「仕事であることを自覚する」「お気に入りの生徒をつくらない」などの案に、周囲の大人は生徒たちからしっかり見られていることを意識し、手本となるよう努めなければならないことを改めて感じ、鋭い指摘とともに改善策を提示した彼らを変えたいと感じました。

●全体を通して

いずれの班も短い時間のなかで課題を選び、解決策をまとめてくれました。大人にインタビューしたことや、市議会議員さん、報道の方などさまざまな「大人たち」の前で発表したことも、良い経験になったのではないのでしょうか。

また、今回は「男性が得なこと」「女性が得なこと」というテーマを通して高校生の視点から男女共同参画について考えてもらいましたが、各班共通して「男性だから」「女性だから」という先入観や固定観念をなくす、ということを提言してくれました。これは大変重要なことです。

我々は日々の生活のなかで、「〇〇はこうすべき」と無意識に役割を決めていて、そこから外れることを良しとしない傾向があります。その根元にある先入観や固定観念に疑問を抱くことは、大変勇気が要ることです。

結婚したいけど非正規だから諦める男性、仕事でもっと活躍したいけど育児で諦める女性。他にも少子化、貧困、過労死、DV、介護にまつわる問題など、現代日本が抱えるさまざまな課題を乗り越えようとするとき、大きな「壁」となるのが、今回高校生が示してくれた先入観や固定観念です。特に、男女の格差の根底にあるのが「固定的な性別役割分担意識」であり、この解消が、誰もが生きやすい地域づくりにとっても最重要課題だと言われています。

この意識は大変根強く、強敵で、その解消はなかなか進んでいません。

しかし、今回高校生と接して気付いたのは、彼らの世代は、大人の世代とは明らかに意識が変わってきているということです。学校という男女の区別・差が少ない環境も影響していることだと思いますが、彼らは「男性だから」「女性だから」という先入観が薄く、あまり偏りが無いと感じられました。

ただ、そのような感性を持つ高校生たちも、これから社会に出ると性別の差による困難を感じる場面に出会うことになるでしょう。男性は強く、女性は優しくあるべきという意識が根強いこの国は、まだ多くの側面が男性中心で形成されており、男女平等が実現できていないからです。

もし、生徒たちが大人になり、このことで「生きづらさ」を感じても、そのことに慣れたり、仕方ないと納得してしまわず、今の感性を失わずに向き合っていてもらいたいと思います。彼らの新しい価値観が、新しい地域を、まちを創っていくのですから。

そのためには、今の大人たちも、若い世代の感性を認め、受け止められる柔軟さが必要です。性別、年代、境遇で一方的に役割を決めつけるのではなく、あらゆる人がお互いを尊重し、個性を認め合い、それぞれが納得してそれぞれの人生を決定していく。このような多様な生き方がまちに新しい価値を生み出していくのです。

誰もが生きやすく、魅力のあるまち。男女共同参画が実現したまち。

将来、この尾鷲高校の生徒たちが、尾鷲市でそんな素敵なまちづくりに取り組んでくれることを心から期待しています。

資 料 編

資料① 2月4日（水）のスライド資料・・・・・・・・・・ p24～33

資料② 「男性が得なこと」「女性が得なこと」実態調査表
・・・・・・・・ p34～37

資料③ 2月17日（火）のスライド資料・・・・・・・・・・ p38～57

新聞記事 南海日日（2月5日（木）、2月20日（金））
・・・・・・・・ p58～61

紀勢新聞（2月20日（金））・・・・・・・・ p62